



## OTC医薬品の比較と使い分け

著者：児島悠史  
発行：2019年12月  
発行所：株式会社 羊土社  
価格：4,180円(税込)  
464ページ、B5判

本書籍  
ご購入は  
こちらから



2024年度の調剤報酬改定で、地域支援体制加算の要件の1つとして48薬効群の一般用医薬品の取り扱いが追加されました。本腰を入れて一般用医薬品の取り扱いを模索している保険薬局様も多いのではないのでしょうか。

本書は、OTC医薬品について、①解熱鎮痛薬、②アレルギー性鼻炎薬(抗ヒスタミン薬)、③鎮咳・去痰薬、④総合感冒薬、⑤点鼻薬(アレルギー性鼻炎)、⑥胃薬、⑦便秘薬、など20の主要なカテゴリに分類。「有効成分」という切り口で比較・使い分けができるよう、各成分の長所・短所や類似薬の違い、使い分けのフローチャートのほか、受診勧奨すべきケース、現場でよくある疑問点をQ&A形式で解説しています。

品揃えや価格面で優るドラッグストアや「目を惹くパッケージ」とは異なる視点で、「薬の専門家」である薬局薬剤師が来局者の要望や背景などに応じて適切な商品を紹介し、保険薬局で扱うOTC医薬品を考えるうえで役立つ知識になるかと思います。



## 読者プレゼント

本誌2025年1・2月号でOTCと花粉症に関する記事をご監修いただいた児島悠史先生の本書籍を、読者アンケートご回答者のなかから、**3名様にプレゼント!**

読者アンケート  
はこちら



## 薬剤師のためのここからはじめる循環器

編集：芦川直也、澤田和久、土岐真路  
発行：2024年10月  
発行所：株式会社 羊土社  
価格：4,180円(税込)  
336ページ、A5判

本書籍  
ご購入は  
こちらから



おり、患者フォローのポイントや処方背景を順に学ぶことができます。カルテを閲覧できない薬局薬剤師にとっては今後の服薬指導時に大いに参考になる内容であり、特に循環器領域へのはじめの一步を踏み出す初学者にとっては、「さまざまな要因」について十分な知識を得たうえで、いよいよ後半の100頁に渡る心不全の章へ進むことができます。

最終章である心不全の章の構成は、斬新で大胆です。いきなりHFpEF(左室駆出率の保たれた心不全)の症例を取り上げ、左室駆出率によって心不全の標準治療が決まるといふ、核心部分に徐々に迫っていきます。その後は前半部分で取り上げた「さまざまな要因」から実際に心不全に至った症例の解説があり、さらに心不全患者の70%以上が合併するといわれるCKD、そして近年話題の腫瘍循環器まで網羅され、循環器領域に関連する最新の話が山盛りとなっています。

本書は、循環器領域の第一線で活躍する病院薬剤師が執筆を担当しており、さらに経験年数が5年程度の若手薬剤師も多く加わっている、というから驚きです。また、校閲には薬局薬剤師も参加しており、現場の実情に沿った具体的で実践的な内容に仕上がっています。初学者だけでなく改めて循環器を学びたいという薬剤師にも、お薦めしたい一冊です。

(評：株式会社関西メディコ サン薬局 地域政策部長 西垣 賢)

令和6年6月より慢性心不全患者に対する調剤後フォローアップの評価が始まり、心不全パンデミックの克服に向けた薬剤師・薬局への期待はますます高まっています。

そもそも心不全という病名はなく、心臓の動きが不十分な結果生じた体の状態であり、高血圧、冠動脈疾患、不整脈、弁膜症、心筋症など、「さまざまな要因」により惹き起こされるものです。

本書は300頁程で構成されていますが、前半の200頁で心不全を惹き起こす「さまざまな要因」について各章・各項目ごとに詳しく解説されています。各項目ごとに、薬局の服薬指導時で良く遭遇するような症例が提示されて